

い な だ

未来の子どもたちに必要な力を

校長 青木 あゆ子

アジサイの花が開き始め、梅雨の訪れを感じるこの頃です。子どもたちは、雨の合間を見つけて、校庭で元気に遊んでいます。

5月9日（木）に行われた学校教育説明会でお知らせしましたが、おいでになれなかった方もいらっしゃいますので、今年度の学校教育目標をお知らせします。

い・いろいろな考えを認めてともに学び、自ら追究する子

（多様な考えを学ぶことに楽しさを見出し、自他の学びを最後まで追究し、協働して課題を解決しようとする、生きる力を持つ子）

な・なかまを大切にし、自分を守り、明るい未来を描く元気な子

（互いの個性を尊重し未来に希望をもち、健康で安全な生活習慣を身につけ、まわりを元気づける強い意志を持つ子）

だ・大好きなふるさとを守り愛する、心やさしい子

（地域への勤労や奉仕、助け合いに喜びを感じる、思いやりのある子）

これからの日本の社会は、人生100年時代といわれ、働く時間が長くなると言われています。また新型コロナウイルスの流行、他国での戦争による食料不足や経済の影響、地球温暖化など、想定外で経験したこともないような問題が、次々に起こってきています。子どもたちの未来は、個人の力ではどうにもならない大きな課題を自分の周りにいる集団の力を借りて解決しなければならない、変化の激しい時代なのです。

そんな子どもたちには、学校の教科書の内容を覚えていることよりも、『今、自分たちに必要な課題を意識し、必要な情報を集めて判断するという「学び方」を知り、生涯にわたって学び続ける力』が求められています。また、『外国から来た人や海外の人も含めて周りの人を理解し、信頼して方向性を一致させ、協働できる力』が求められています。

そのような未来を生きる稲田の子どもたちに、上記のような教育目標を定めて、一年間取り組んでいきます。保護者や地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

川崎市制100周年 豆ちしき②

今年、川崎市は7月1日に市制100周年を迎えます。大正13（1924）年7月1日に、川崎町と御幸村、大師町が合併して川崎市が誕生したのが、川崎市の始まりです。明治末期から大正にかけて、工場誘致が進み、埋め立て事業も開始されて臨海部に大手企業が進出し、一大工業地帯が形成されていき、川崎市が発展してきました。